

コンクリート製品メーカーが選ぶ 2016年の10大ニュース

1. フジシルバーテック 第1工場がインドに竣工
2. i-コンストラクションが本格化
3. 熊本地震、製品工場も被災
4. ハレーサルト製Hパイル、太陽光基礎に15万本
5. 熊本地震対応で宅協、九州製品協会に感謝状
6. 大村セラテック、カンボジアに製品工場竣工
7. イビコン、中国道で自在R連続基礎大量受注
8. 低調な製品出荷
9. ヤマウ、国内外に布石
10. よねざわ工業、PC 緊張で型枠CB造

●不二コンクリート工業が 連覇、インド現法の工場竣工

今年の10大ニュースは第1位の不二コンクリート工業と第2位のi-コンストラクションが激しく競ったが、昨年に続き不二コンクリート工業が第1位となり、「コンクリート製品メーカーが選ぶ10大ニュース」初の連覇を達成した。海外関連のニュースは不二コンクリート工業を含め3件がランクインを果たしており、需要が低迷する国内事情を切実に反映した形となった。

第1位となった「フジシルバーテック」は、不二コンクリート工業(佐賀県)とインドのコンクリート製品企業シルバーテックが設立した合弁会社。インド北西部グジャラート州の主要都市アーメダバード郊外に約7万5000㎡の土地を取得し、今年1月に第1工場が竣工した。工場建屋面積は約2000㎡で生産量は日産最大200トン。高流動コンクリートによる製造を行っている。現地で豊富な人脈と実績を持つシルバーテックの強力な営業力と、日本国内でも有数の高流動コンクリート技術を有する不二コンクリート工業の高度な技術力とのシナジー効果により、インド最大のコンクリート製品企業を目指している。「同社のインド進出を契機として、業界内で海外進出を検討する

企業が増えた。業界に与えたインパクトは大きい」、「今後大きな成長が期待されるインド市場に日本のプレキャスト製品技術で本格参入する意義は大きい」、「同社の他に型枠と鉄筋メーカーを加えた、チームジャパンで参入している点に注目したい」など、昨年に続き同社に対する称賛や期待の声が多く寄せられた。また「仕事で海外に出かける機会が多くなり、世界では中小企業の海外進出が当たり前に行われている事に気が付いた。日本には素晴らしい技術や製品を持っている中小企業がたくさんあるのでもったいない。国内市場が期待できないという事ではなく、我々の製品や技術を世界で活用してもらおう事で役に立ちたい」という積極的な理由で海外市場に挑む企業がもっと出てきてほしい」との意見も寄せられた。

第2位には「i-コンストラクション」が選ばれた。高齢化が進む建設現場では、高齢化による人手不足が深刻な問題となっており、国交省や建設業界ではi-コンストラクションを通じて生産性向上で建設プロセスの全体最適を図ろうとしている。このうちコンクリート工では、コンクリート生産性向上検討協議会(委員長 前川宏一 東京大学大学院教授)が生産性向上に向けた検討を進めており、プレキャスト化の推進に

大きな期待が集まっている。同協議会には全国コンクリート製品協会など業界3団体が参画しており、その意義は業界にとって非常に大きいと言える。10月には国交省が、プレキャスト化がコンクリート工の生産性向上に大きく寄与するとする試算結果を公表するなど、業界に追い風が吹いている。

第3位には「熊本地震、製品工場も被災」が選ばれた。最大震度7を二度も記録する未曾有の惨事で、熊本城の無残な姿は全国の人々に衝撃を与えたが、そうした中で緊急復旧に向けたコンクリート製品業界団体の動きが光った。九州コンクリート製品協会(会長 長 川崎秀雄氏)が昨年3月に国交省九州地方整備局と締結した災害対策支援協定に基づき、発災直後からコンクリート製品等の在庫状況について情報提供を行う一方、全国宅地擁壁技術協会(会長 永吉哲郎氏)も発災直後から現地入りし、被災宅地危険度判定に必要な資料の作成や被災地の状況調査等を通じて復旧復興活動を支えた。こうした活動に対して九州コンクリート製品協会には九州地方整備局から、全国宅地擁壁技術協会には国土交通省住宅局から感謝状が贈られた(第5位)。「発災時に行政と連携した活動を行うことは非常に重要で、同様の取組みを全国各地に広めることがコンクリート

お礼

不二コンクリート工業株式会社
代表取締役 入江 俊介

弊社の現地法人フジシルバートックのニュースが昨年に続き10大ニュースのトップに選ばれ大変光栄に感じております。現地インドで頑張ってくれている日本人スタッフ、そしてインド人スタッフも大いに励みになった事と思います。投票頂いた皆様ありがとうございます!

想定外(インドですから)の事は色々ありますがおかげさまで製品の出荷も始まり、かなりの評価を頂いていると聞いております。日本の高度成長期前の状態だと思って頂くと分かりやすいでしょうか。仕事量は想像以上の様です。来年度よりムンバイ~アーメダバード間的高速鉄道も日本の新幹線技術で着工が始まり、弊社の活躍の場も増えるものと期待しているところです。

これからも日本ブランドを活かし、インドの発展に寄与出来るように高品質な製品を提供するよう頑張っていく所存です。是非皆様もインドに遊びに来て下さい!思ったより面白い所ですよ...色んな意味で(笑)今回は誠に有難うございました。

10大ニュース・Impression
カレーとパクチャーの匂い

今年の10大ニュース、1位と6位と9位は九州からの海外進出です。国内でのPCa需要が漸減する中、海外に活路を求める流れがいよいよ本格化してきました。カレーとパクチャーの匂いがします。チャンネルが好きな方もいらっしゃるかも知れませんが...

2位はi-コンストラクション。PCa業界に突風が吹いていると言われております。突風に吹き飛ばされないよう、しっかり地に足をつけて受け止めないといけませんね。

3位は熊本地震。これにはビックリしました。何の根拠もないけれど、熊本で地震が起こりそうな気がしていなかった。5位は震災復旧に貢献した二団体に感謝状。これも入れると、10大ニュースのうち5つが九州の話題でした。

4位はハレーサルト製Hパイル、しかも太陽光基礎に採用。噂には聞いていましたが、なんと15万本です。1本3mとしても、450km。中国道と名神に並べたら真庭市から浜松市まで行きます。並べなくてもいいのだけれど。

7位はイビコンの自在R。あちこちで見かけます。これも中国道、Hパイルと勝負するつもりでしょうか? 違うか!?

15位ではありますが、11月のJPCFでは、日建連常務執行役・小池剛氏の講演でPCa製品の有効性を評価頂きました。建設業界からのラブコールか? そろそろ自虐史観にピリオドを打つ時がきたのかも知れません。謙虚にして奢らず、期待に応えるべき時が来たようです。

それではよいお年をお迎えください。おせちもいろいろ、カレーもね。

週刊ブロック通信 論説委員 衣笠 仁浩

ト製品業界の社会的地位向上に繋がる」といった声が寄せられた。
第4位には「ハレーサルト製Hパイル、太陽光基礎に15万本」がランクインした。ハレーサルトはランデス(岡山県)が開発した、高炉スラグ微粉末を有効利用した超耐久性・長寿命コンクリートで、昨年の国土技術開発賞に続き2年連続、通算3度目のランクイン。
今回採用となったのは、岡山県内の塩田跡地を利用した国内最大級の太陽光発電施設。約92万枚の太陽光パネルを取り付ける計画で、架台基礎に耐塩害性が求められる事からハレーサルト製のHパイル15万本が採用となった。「常に社会の役に立つことを志向し、技術革新を図ろうとする姿勢はコンクリート製品業界の模範」と研究開発

を追求する姿に賛辞が寄せられた。第6位にはH・O・C(長崎県)等を傘下に持つ大村セラテック(長崎県)のカンボジア子会社、大村コンクリートが建設を進めていた即脱製品工場の竣工が選ばれた。カンボジアの土木工事現場で高い需要が見込まれるインタロックキングブロックや間知ブロック等を製造する計画で、製造設備は工場建屋ごと日本の遊休化施設を買収して移設した。「当社には真似のできない投資で心から成功を祈っている」と賛辞が寄せられた。
第7位は「イビコン、中国道で自在R連続基礎大量受注」だった。NEXCO西日本は中国自動車道で、老朽化したRC床版を耐久性の高い床版へ取り替える大規模更新・修繕事業「中国自動車道リ

ニューアルプロジェクト」を進めており、工事に伴う車線規制用に自在R連続基礎が大量に採用されている。コンクリート製品業界の大きな課題となっている維持補修分野の需要を開拓した点で、大きく評価されるべきニュースと言える。
第8位は「低調な製品出荷」だった。今年選ばれた10大ニュースには、この問題への「解」を模索するコンクリート製品業界の姿が反映されていると見る事ができるのではないかと。今やコンクリート製品業界全体が公共工事量の減少に苦しんでおり、各社とも「次の一手」は待たない状況だ。

第9位に選ばれた「ヤマウ(福岡県)、国内外に布石(熊本子会社、インドネシア)」は、これまで国内市場でM&Aや業務提携を通して「JICAの案件調査を得るまでの下準備や人脈づくりは想像を超

えて努力であり、発展途上国での着実なビジネス展開に期待したい」との声が寄せられた。
第10位には「よねざわ工業(北海道)、PC緊張で型枠CB造」が選ばれ、建築ブロック関連で唯一のベストテン入りを果たした。新構法を採用したのは3階建ブロック住宅の増築工事。2階・3階部分が跳ね出し構造で通常のブロック組積造の設計では構造壁の耐力が持たない為、新たな試みとして型枠コンクリートブロックをポストテンション方式でPC緊張し構造壁とする方法を採用した。関係者によるとPC緊張による型枠CB造の施工は世界初という。米澤総社長は「趣味のようなもの」と謙遜するが、CB造の可能性を広げた意義は極めて大きい。